駅伝監督 MESSAGE



両角 速（モロズミ ハヤシ）

体育学部競技スポーツ学科 教授
陸上競技部 駅伝監督

1966 年 7 月 5 日生まれ
1985 年 3 月 東海大学第三高等学校(※) 卒
1989 年 3 月 東海大学体育学部卒
※現在の校名は「東海大学付属諏訪高等学校」

第 98 回箱根駅伝を迎えるにあたり、東海大学を応援してくださる皆さまに、心より感謝申し上げます。また、日ごろからご支援をいただいております多くの皆さまにこの場をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。

さて、今季は 10 月の出雲全日本大学選抜駅伝競走で 9 位、11 月の全日本大学駅伝対校選手権大会では 12 位と苦しい戦いが続いております。一昨年度に“黄金世代”と称された館澤亨次（体育学部卒・DeNA アスレティックスエリート）や阪口竜平（同・SG ホールディングス）らが、昨年度は塩澤稀夕（同、富士通）や名取燎太（同・コニカミノルタ）らが卒業し、チームは戦力を一新しました。本間敬大駅伝主将（体育学部 4 年次生）や山口順平主務（文化社会学部 4 年次生）ら最上級生が中心となって、今夏には例年以上に距離を踏み、箱根駅伝に向けたスタミナ強化に取り組んできました。その成果もあり、神薗竜馬（健康学部 2 年次生）や溝口仁（体育学部 2 年次生）ら新戦力の台頭も見られています。その一方で、石原翔太郎（同）や松尾昂来（同）らを故障で欠いた影響もあり、皆さまのご期待に沿う結果を残すことができませんでした。

今年度の集大成となる箱根駅伝では総合 6 位以上が目標です。来年度に向けて、総合 10 位までに与えられるシード権は何としても死守したいと選手たちは必死に努力を続けています。今季の結果もあり各メディアにおける東海大学への注目度は決して高くありません。しかし、劣勢に立たされているときほど、学園関係者の皆さまや卒業生の応援が何より彼らの力になります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今大会を主催する関東学生陸上競技連盟から「沿道でのいかなる活動も自粛」するよう発表されています。選手たちの力走を直接見ていただけないのは残念ではありますが、画面越しにぜひ温かいご声援をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走 沿道での応援自粛のお願い

今年度も、新型コロナウイルス感染症予防を最優先するため、大会事務局より沿道などすべてのコース上で応援自粛が要請されています。ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本学では「東海大学駅伝応援サイト」を開設しています。監督・選手のインタビュー等、充実したコンテンツになっておりますので、ぜひご覧ください。

詳細はwebサイトをご参照ください
※URLが変わりました！

https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/club/daigakuekiden/

今年度の学生三大駅伝

■第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走

総合 9 位でした。今年度は主力選手が大幅に入れ替わり万全とは言えない状況でしたが、2 区の溝口仁選手は総合順位を 2 つ引き上げ、5 区の神薗竜馬選手が区間 5 位と健闘、今後のレースでも期待できる内容を見せてくれました。


本間選手

■第53回全日本大学駅伝対校選手権大会

1 区で区間 15 位と苦しいスタートでしたが、2 区の松崎咲人選手、4 区の川上勇士選手らの力走で差を縮め、7 区の主将本間敬大選手がシード圏内の 8 位に 35 秒差まで迫り、最後必死に前を追いましたが、総合 12 位となりました。


竹村選手

第 98 回 東京箱根間往復大学駅伝競走

箱根駅伝

【東海大学応援ガイドブック】



2022 年 1 月 2 日（日）・3 日（月）
8：00 START

東海大学
Think Ahead, Act for Humanity

9 年連続 49 回目の 箱根路への挑戦 !!

陸上競技部 STAFF

■陸上部部長：髙野　進　■陸上部監督：髙野　進
■駅 伝 監 督：両角　速　■駅伝ﾍｯﾄﾞｺｰﾁ：西出 仁明
■ｽｶｳﾄ兼ｺｰﾁ：瀧川 大地　■駅伝コーチ：小池 翔太
■アドバイザー：丹治 史弥
■駅 伝 主 将：本間 敬大　■駅 伝 主 務：山口 順平



■本学の箱根駅伝の記録

大会回数	年	総合順位	大会回数	年	総合順位
第49回	1973	14位	第73回	1997	8位
第50回	1974	9位	第74回	1998	14位
第51回	1975	10位	第75回	1999	5位
第52回	1976	13位	第76回	2000	7位
第53回	1977	6位	第77回	2001	途中棄権
第54回	1978	10位	第78回	2002	14位
第55回	1979	11位	第79回	2003	7位
第56回	1980	10位	第80回	2004	2位
第57回	1981	12位	第81回	2005	6位（往路優勝）
第58回	1982	11位	第82回	2006	6位
第59回	1983	5位	第83回	2007	3位
第60回	1984	6位	第84回	2008	途中棄権
第61回	1985	13位	第85回	2009	18位
第62回	1986	7位	第86回	2010	12位
第63回	1987	6位	第87回	2011	4位
第64回	1988	8位	第88回	2012	12位
第65回	1989	8位	第90回	2014	13位
第66回	1990	8位	第91回	2015	6位
第67回	1991	8位	第92回	2016	5位
第68回	1992	10位	第93回	2017	10位
第69回	1993	14位	第94回	2018	5位
第70回	1994	5位	第95回	2019	優勝
第71回	1995	8位	第96回	2020	2位（復路優勝）
第72回	1996	4位	第97回	2021	5位

【過去最高順位】総合：優勝、往路：優勝、復路：優勝